

公表

児童発達支援センターとらのこキッズ 保護者等からの事業所評価の集計結果

○保護者の皆様へ 本評価表へのご協力ありがとうございました。今回は対象を4月入園のお子様35名とさせていただきます、内32名の保護者様からご回答いただきました。ご協力いただきましたこと感謝申し上げます。
いくつかの課題もいただいておりますので、今後のより良い取り組みになるように努めさせていただきます。

(実施期間:令和6年11月19日～12月4日 方法:書面配布。回収:無記名での封書にて提出。保護者への公表 R6年12月17日 HPでの公表 R7年6月3日)

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	空欄	ご意見(一例・要約)
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	32					・子どもにとってはとてもいい広さです。クラスの数も多くないので、十分だと思います。・わんぱくルームで遊ぶことをとても楽しみにしています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	32					・職員の人数が多いので、きめ細やかに支援してもらえる。・(職員)のお休みがあってもフォロー出来る人数だと思います。
	3 クラス内は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、施設内の設備等は、障害特性に応じて、情報伝達(写真カード・絵カード)等への配慮が適切になされていると思いますか。	29	2		1		・面談・保護者会等で訪問するたびに、視覚的に分かりやすくなっていると思います。・ロッカーの位置や大きさなど適切だと思います。
	4 クラスを含めて施設内は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	31	1				・清潔でよいと思う。・いつもきれいです。
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	31	1				・ほめて良いところを伸ばしてもらえます。・子どもに合わせた素材作り等されていると思います。
	6 施設が公表している支援プログラム(療育活動・給食・日課)は、施設の提供する支援内容と合っていると思いますか。	32					・給食がおいしいようで、食べられるものが増えました。・カリキュラムが明確で分かりやすい。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	31	1				・子どもの様子や保護者の話を聞いて作成されていると思います。・モニタリングも細かく、情報共有も多い。
	8 児童発達支援計画には、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	29	1		1		・分かりやすく具体的に設定されていると思う。・細かい聞き取りや、子どもを理解しようとする様子が伝わっています。・子どもに合わせた方法などを相談してもらえるので、子ども達の成長につながりやすいと思う。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	31			1		・具体的に無理のない目標なので、定期的に達成でき適切だと思います。・子どもの段階に合った支援計画と実行がされていると思います。
	10 施設の活動日課が固定化されないよう工夫されていると思いますか。 (例:行事や季節の集会、お弁当箱デイ・おやつパーティー等)	31			1		・家族参加の行事など、楽しく参加しています。園での子ども様子も分かります。・おやつパーティーを楽しみにしているようです。・(季節の行事は)家族で楽しみにしています。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	5	7	9	11		
保護者 への 説明等	12 施設を利用する際に、支援プログラム、施設運営、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	31			1		・分かりやすかったです。
	13 「児童発達支援計画」に際して、保護者意向への聞き取りや、意見交換、支援内容の説明がなされましたか。	31	1				・しっかりと時間をとっているかと思います。
	14 施設では、家族に対して家族支援プログラム(保護者会での講話会等、家族等も参加できる研修会等)や情報提供の機会等が行われていますか。	31			1		・毎年「先輩パパの会」は兄弟の行事と重なってしまいました。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	31	1				・心配なことを連絡帳で伝えると電話で話したりできています。・何かあるとすぐ連絡があるので、こちらからも聞きやすい状況になっています。
	16 定期的に、面談や子育てに関する、相談、助言等の支援が行われていますか。	32					
	17 施設の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	30	2				・悩んでいる時には相談に乗って頂いています。・皆さんこども思いで、普段からそれが伝わります。
	18 保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、行事等においては、保護者・家族同士の参加への機会が設けられるなどの支援がされていますか。	32					・とても充実しているとします。・他の保護者さんとも連絡を取り合ったり、家族イベントも楽しいです。
	19 こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制(苦情解決の仕組み)が整備されている共に こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	28		1	1	2	・分かりやすく説明していただいています。
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	29	1			2	

非常時等の対応	21	定期的にお便りやホームページ、SMS（マチコミ）等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関することを保護者に対して発信されていますか？	28	2		2	・難しいかもしれませんが、活動の様子が詳しく見れる動画/写真等があれば嬉しいです。・HPはもう少し更新があると、外部の人がもっと園の良さを知れると思います。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	29			1	2
	23	施設では、事故防止への対応、緊急災害時の対応、感染症の予防対応等が保護者に説明がされていますか。また、緊急時を想定した訓練が実施されていますか。	30				2
	24	施設では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	29	1			2
	25	施設より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	29	1			2
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、施設から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	28	1		1	2
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	30				2
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	28	1	1		2
	29	施設の支援に満足していますか。	29	1			2

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
とらのこキッズ		R7年6月3日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			クールダウンできる小部屋が療育活動エリアに少ない。当年は4クラス編成なので、雨が続く時期のうんどう活動場所がう区内。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			一部のクラスが他クラスと離れており、玄関ホールを通っての入室となり、その際に大人用のトイレ前を通っている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃・消毒・換気は徹底しているかと思う。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			療育活動エリアにクールダウンの場が少ない。
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		○	振り返りのチェックシートに基づいた、管理者との1 to 1の面談の実施。	新任者には1年間実施している。次年度より全職員に実施予定。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者への公表を実施。	毎年実施しています。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年年度末に、「頑張った自分」「頑張ったクラス」「がんばった、とらのこキッズ」「がんばろう、とらのこキッズ」を記述・配	頻度が少ない。次年度から更なる方法を実施。意見が出やすい仕掛けと、日常からの双方でのコミュニケーションへの工夫。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		機能強化事業に対しての第三者評価は実施。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人事業所全体での権利擁護研修の実施。また外部からの講師をお呼びしての研修会も数回ではあるが実施。	コロナ禍以前と比較すると外部機関での研修参加の機会は少なくなっています。次年度への課題と認識。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページにて公表。	より分かりやすく、していくことが課題。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		クラス担任全員でアセスメントを行っています。支援計画の素案作りにも全員で取り組んでいます。	アセスメントにおいては、客観的な分析には更なる取り組みが必要。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		クラス担任間の共有の基に、クラス内で素案を建て、児童発達支援管理責任者と共同作業でのプロセスを経ての作成となっています。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		年3回の作成としています。クラス内に身辺面等について、目立たぬように掲示し、担任間だけでなくフリー保育者にも周知。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントの際には共有スケールを基に行っています。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		日々のクラスの療育活動の「ねらい」を基に、お子さん個人の目標に沿った、保育者の関わりと行っている。	毎日の振り返りの中での、チューニングは必要。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		クラスで実施。	他クラスとの共同で活動等も実施。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			梅雨時期など雨天が続く時期には、遊戯室でのうんどうあそびがマンネリ化しないように。

関係機関や保護者との連携	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもの気持ちや、体調面を含め変化がある時には、クラス担任間で共有し、環境設定を含め、随機応変に対応できるように努めている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼・終礼の実施。お子さんの登園状況や職員の欠席等での変更等の確認の実施。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		クラス内ではできる限り実施。全体周知な事項は必ず行います。	ITC化への取り組み。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日誌を記述することでの自己への振り返り。	20と同様。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		クラス担任。リーダー・児発管で対応しています。（家族支援に際しては施設長も参加。）	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		できる限り参加しています。	保健センターとの連携。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		卒園後の学校生活において、ご相談も行っています。（学校からご相談を受けることもあります。）	次年度の課題の一つ。点から線の段階。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		引継ぎ連絡票だけでなく、積極的に行っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。	○		今年度より、地域事業所との連携会議を始めしています。	幼稚園・保育所等の連携が必要。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○			外部研修を保育者全員で受講する機会が難しく、個別で受講した者が、内部でフィードバック。他事業所の見学もできれば。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		自立支援協議会の部会委員として参画しています。	次年度は、特別支援教育関係にも参画予定。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		コロナ禍以降、幼稚園等への転園が少なくなりました。機会として再構築が必要。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々も連絡帳だけでなく、電話での対応を実施。	現在アナログの方式を、今後段階的にITC化を進める予定。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		毎月、保護者会を実施しています。ペアトレは行っていないが、子育て支援への研修・父親を対象とした意見交換会・研修の実施。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		ご利用開始前の保護者との作業には時間をかけているかと思います。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談・アンケートを実施しています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		タイムリーな面談・家庭訪問ができるように努めています。（場合により時間外・休園日に対応する場合もある。）	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		毎月保護者会を実施しています。クラス単位だけでなく、お子さんの年齢別での意見交換がデキキのような機会を保護者会役員さんと相談して実施しています。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		タイムリーな面談・家庭訪問ができるように努めています。（場合により時間外・休園日に対応する場合もある。）	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月の「とらのご便り」、HP等。	次年度はHPの見直し、Instagram等の活用等を計画。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		写真カードや絵カードを、お子さんの状況や場面に応じて、使い分けている。	「伝えた」でなく「伝わったか」ということへの確認の意識向上。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		地域に向けて、「特別な場所ではなく、子育て支援の場所」として、どうアピールしていくか？
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		吐しゃ物の取り扱いの練習を実施しています。	保育者の理解（マスター）・意識に差が出ないように、更なる工夫や機会が必要。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		毎月の避難訓練・災害伝言ダイヤル訓練・引き渡し訓練等を実施しています。	救出訓練等は行っていないので、今後の課題。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		給食提供がありますので、栄養士、調理員との連携が不可欠です。また配膳時に誤りが起こらないように、複数名で確認。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		送迎運転手については、委託会社での安全運転研修を受講。	特別な「安全計画」は作成していません。次年度は不審者対応への訓練を実施予定。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		個人の気付きが、皆の気付きになるように。利用契約の際に「非常災害計画」を配布し、ご説明しています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		職員室に掲示するだけでなく、クラスで話し合い、その内容を全員に周知。KYTの実施。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		「不適切」を意識するよりも、「適切さ」を考えることに意識を向けています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		具体的にどのようなことが「身体拘束」「行動の制限」になるのか、ご説明しています。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	とらのこキッズ			
○保護者評価実施期間	R6年11月19日 ~ R6年12月4日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35名	(回答者数)	32名
○従業員評価実施期間	R7年1月6日 ~ R7年1月14日			
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年6月3日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	3:1での職員配置により、きめ細やかな視点でクラス単位での療育支援(発達支援)を実施しています。	より良い療育支援(発達支援)を目指し、子どもとの関わり合いでの「適切さ」を保育者全員で意識しています。また子どもの視点に立った(主語を子ども自身とした)、個別支援計画を作成しています。周囲の大人の気持ちばかりが大きくならないように、繰り返し、繰り返し職員への意識付けを行っています。	保育者が共有すべき明確なミッションと、そのためのクレド作成に向けて取り組みます。
2	日々通園施設でのクラス単位での療育活動により、人(保育者・子ども同士)を含めた一定した環境設定の中、子どもが安心感を持って療育活動に取り組めること。	同じ手順・同じ手だてで、子ども自身の「できること」を「できるように」ことへ促します。大人(保育者)が先走りしないように、大人が「見る」「聞く」「イメージすること」「クリエイティブ」を意識できるように。「想像」から「創造」につながることを保育者に伝えています。	保育者間のコミュニケーションの時間をより、多く持つため、事務的作業のITC化を進めていきます。
3	2か所の園庭があり、遊戯室を合わせると雨天時以外は、同時に3クラスごとが、うんどう療育活動の設定を行うことができます。また園内において、ご希望される保護者の方のお子様には、通う慣れた場所での発達検査・ことばの個別療育を行うことができます。	うんどう療育活動では、子どもたちの「わくわく」と「どきどき」、次につながる達成感(「あー楽しかった。またやりたいね」)を大切に思っています。大人からの「だいじょうぶ、だいじょうぶ」という言葉かけが、なくなるように。	5年前に大規模改修を実施しましたが、園庭の手入れまで及びませんでしたので、令和8年度には園庭の整備ができるように、職員間での意見交換を始めたいと思います。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	幼稚園、保育所等での体験研修。	保護者の方から、お子さんの転園や体験入園等のご相談があった際に、保育者の経験値が異なるため、イメージ共有に課題。	次年度に取り組むべき課題と認識。保育者二人のペアでの体験研修を実施したい。
2	事務作業等でのITC化が遅れている。	保育者の事務作業の軽減を図りたい。	次年度に取り組むべき優先課題と認識。保育者と協議相談し、取り組みを始めたい。
3	他事業所との連携が図れていない。 ※上記1と同様。	週5日の通園施設であるため、お子さんの他事業所や幼稚園、保育園との併用利用がない。そのために地域の事業所との連携が弱い。	次年度に取り組むべき優先課題と認識。保育者と協議相談し、取り組みを始めたい。